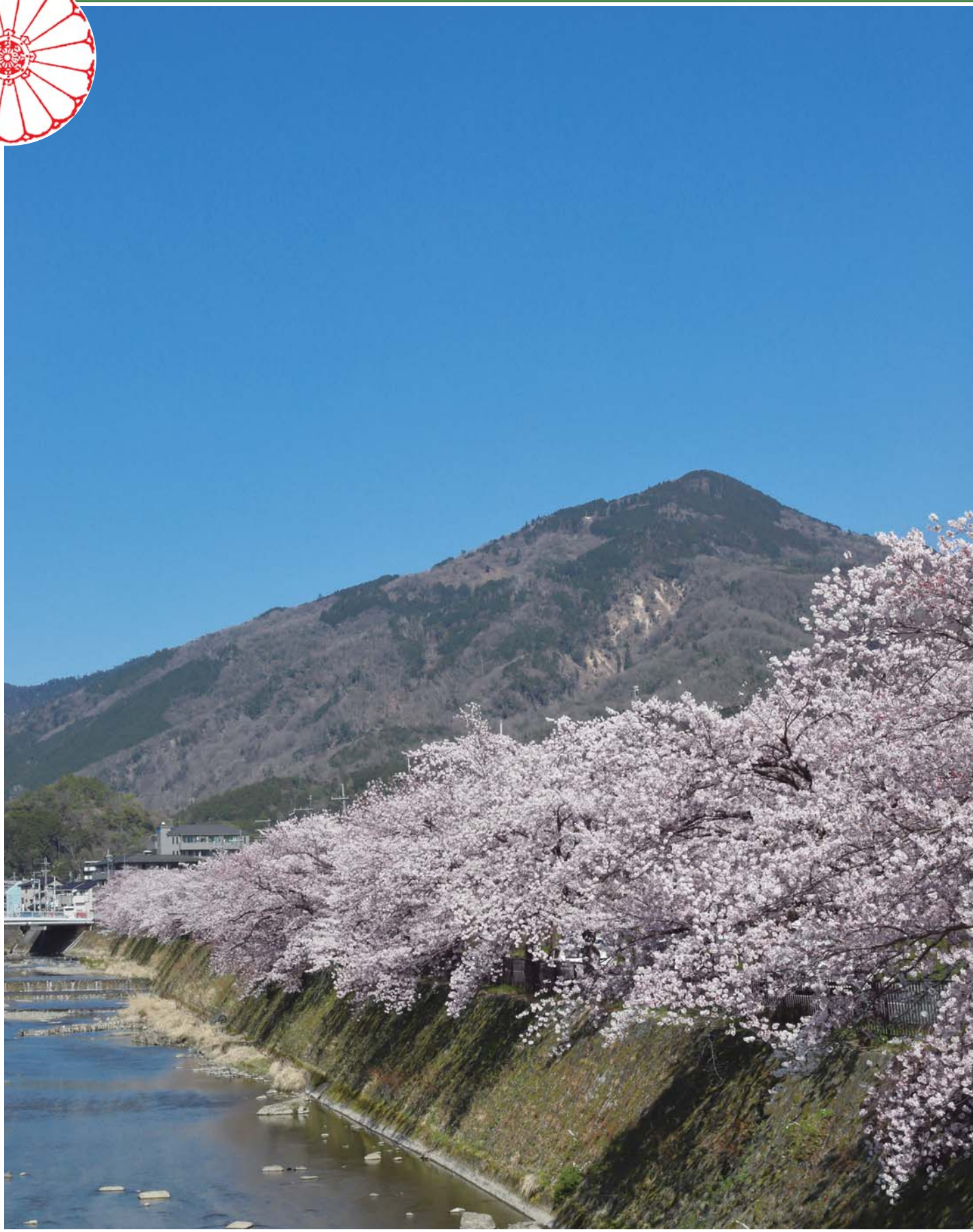


4月4日、御修法開闢の日、満開の桜咲く京都より拝する比叡山



発行所
比叡山時報社
〒610-0820 大津市坂本本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
年度会費(3000円)中
に会報(比叡山時報)
購読料を含む。

令和3年比叡山から
発信する言葉
**自他
同心**
自他心を同じくす



こちらから

ご購読は

春分を過ぎ、日ごとに一日が長く感じられる四月。入学式の初々しい装いに、桜の花が映える風景は、生命が萌える季節の到来を感じさせてくれます。冬の北京オリンピックの開会式では、カウントダウンが二十四節気なされましたが、四月は「清明(四月五日)」や「穀雨(四月二十日)」の季節です。すべての生命が清らかな春の息吹を受け芽吹き、生命を慈しむ甘露の雨が降り注いでその成長を促す様子が感じられます。そもそも二十四節気は、太陽の動きをもとに一年を二十四等分したもので、中国で考案されました。それぞれの季節の自然現象を表現した内容で、日本でも古くから用いられ、中国との気候の違いにより多少のズレを感じるものの、自然と密接に繋がる農耕社会にとっては重宝されたようです。その他、二十四以外の節気も追加され、季節の食材も合わさって季節行事となりました。立春前日の節分の豆まきや、冬至のゆず風呂、春・秋分の彼岸参りには牡丹餅やおはぎ、土用丑の日のうなぎなど、現在でも身近に聞くものも多くあります。エネルギーあふれる季節の空気や食をとり入れると、勢い活力が得られるでしょう。

ところが最近、インフラの整備にともない生活のスタイルが随分変化しました。常に同じ食べ物が食べられたり、昼夜が逆転したりと、季節も時間も気にせず生活ができてしまうようになり、時々の季節を味わい愉しむ行事も減ってきたような気がします。現代は便利になったと言われる反面、自然からのエネルギーを吸収する機会を失ってしまっているのかもしれない。

その昔、宗祖伝教大師は比叡山に入り、修行され天台宗をひらかれました。大日如来、日光菩薩、月光菩薩など大自然を仏さまと感じる仏教では、より自然に近づくことが大切です。比叡山の厳しく、不自由な環境に身を置くことで五感研ぎ澄まされ、より自然を肌で感じ、仏さまを身近に感じることができたのでしょう。

自然の中で生かされる自分を発見することは、仏さまに抱かれ育まれる自分に気付くことでもあります。大自然の息吹を感じるこの季節、ぜひ比叡山の靈氣にふれ、心ゆったりと、仏さまに生かされる自分を体感していただきたいものです。

春－自然に生かされる自分を体感する

特別展「最澄と天台宗のすべて」京都で開催

天台宗祖師先徳瞻仰大法会

名宝130件が比叡山のお膝元に集結
京都の街一円に渡る壮大な展覧会

宗祖伝教大師一千二百年大遠忌のご縁をいただき、東京・九州・京都の各国立博物館にて昨年10月12日から本年5月22日にかけて、伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」が開催されている。本号では、来たる4月12日より同展の締めくくりとなる京都会場（京都市東山区・京都国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、読売テレビ、文化庁主催）での開催を前に、展示される代表的な展示品や見どころを紹介していく。

締めくくりに相応しい展示
宗祖のご生涯を名品で辿る

昨年10月に東京国立博物館で思想が生んだ様々な文物を会場に始まった特別展「現代へのつながり」を、別展「最澄と天台宗のすべて」が全国に広がり点を、京都・九州・立博物館での開催を経て来る4月12日（土）から5月22日（日）にかけて、京都国立博物館・松尾の国宝は23件、重要文化財は71件となります。また、延暦寺所蔵の伝教大師ゆかりの名品や、大坂の陣へと至る因縁で有名な天台宗寺院方広寺が、延暦寺比叡山延暦寺や比叡山延暦寺から輩出された名品が京都に集結し、街一円に渡る壮大な展覧会となります。（会期中展示替えあり）

開宗から江戸時代まで
文化財を地域的特色で展示

伝教大師は「悟りに至る道はすべての人に開かれたべき」という平等思想を説いた『法華経』に心をこめ、天台宗への入唐求法にて天台の教えを我が国へと伝広められました。東には琵琶湖を、西には京都を見下ろす比叡山延暦寺から輩出された名品が京都に集結し、街一円に渡る壮大な展覧会となります。（会期中展示替えあり）

重文 聖観音菩薩立像

一軀 木造素地 截金 平安時代・十一世紀 滋賀・延暦寺蔵



横川中堂のご本尊を目前で拝することが出来る最大にして最後の勝縁。慈愛に満ちた笑みを浮かべ衆生を救うがごとく右足をわずかに踏み出されたお姿に感動（写真は九州会場展示時）

国宝 伝教大師入唐牒

一巻 紙本墨書 中国 唐時代・貞元二十一年（八〇四・八〇五） 滋賀・延暦寺蔵（5月30日～5月22日まで展示）

延暦23年（貞元20年/804）に入唐された伝教大師が求法のため明州（寧波）から天台山に赴いた際、通行許可証として発給を受けた唐の公文書「日本国」から始まる部分は伝教大師の直筆による発給申請



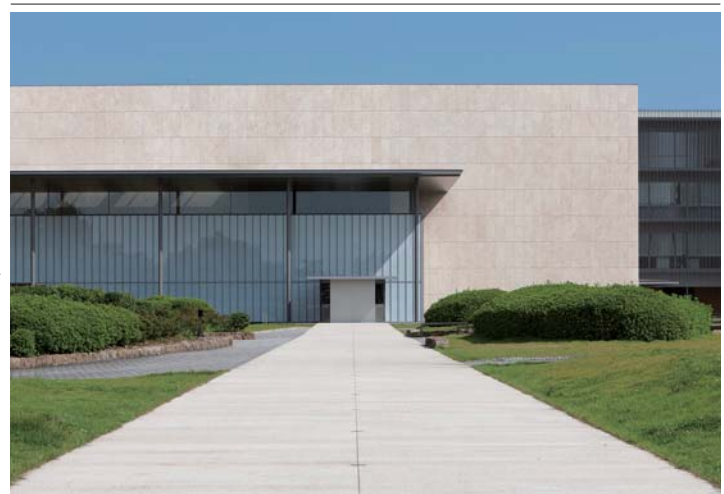
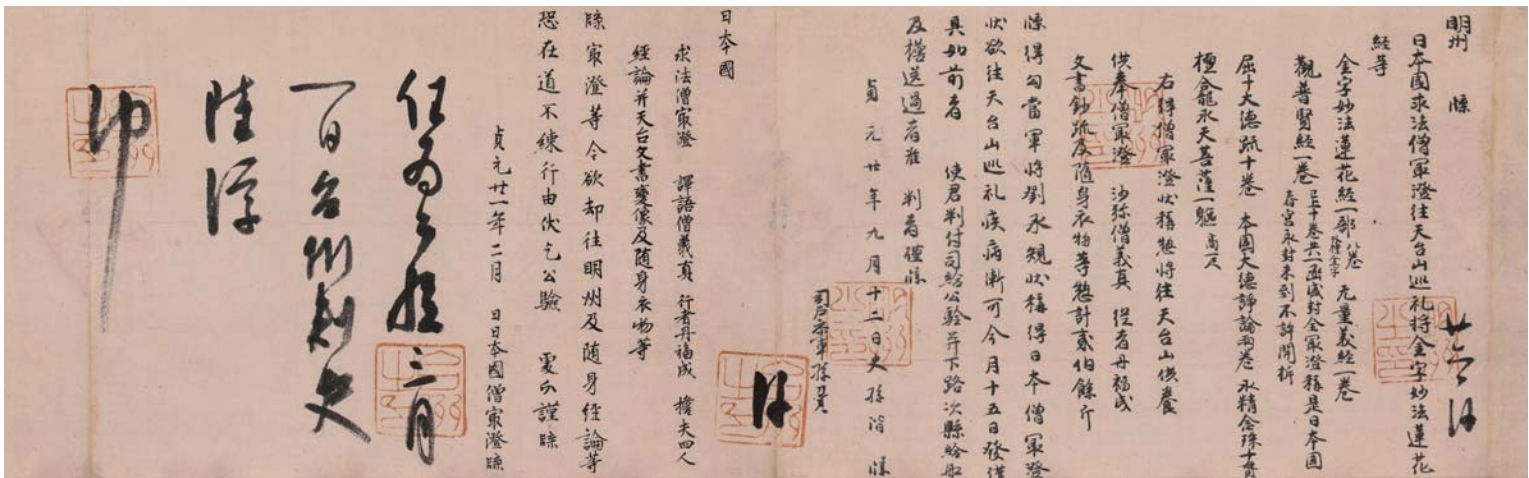
山法師による強訴「神興ふり」の象徴。日吉七社の樹下宮に相当するもので、各部に打たれた大振りの鈐金具には同社の神獣（神猿）を大胆かつ繊細な鑿運びであらわしている。また細部には「廃仏毀釈」の爪痕も残され、歴史の証左となる

重文 薬師如来立像

一軀 木造素地 截金 平安時代・十一世紀 京都・法界寺（真言宗醍醐派）蔵



浄土真宗の祖「親鸞聖人」を輩出した日野家の菩提寺、法界寺の秘仏。胎内に伝教大師自刻の像を納めた伝承があったが、この度の調査でその詳細が確認された。寺外初公開の貴重なご縁（写真は東京会場展示時）



京都国立博物館平成知新館外観



会場正面の三十三間堂 国宝千手観音立像群

・第六章 現代へのつながり
―江戸時代の天台宗の六つの章で構成され、その説く万民救済の精神をあらわす文化財を地域的に展示する。また、日本各地で護り伝えられてきた貴重な宝物や『法華経』の難点について言及し、その上で大原氏は「そういった京都の方々はもちろん、たくさんの方々も満足していただけるよう、天台宗はもとより他宗も含め様々な寺院に足を運び秘仏の御出陳をお願いして回り、同館でも珍しい秘仏を展示したい」と意気込みを語った。

特別展の見所に意気込み
「たくさんの方々に満足感を」

去る1月17日に執り行われた記者発表では、同館保存修理指導室の大原嘉豊室長が同展の見所について、「京都」という伝統文化に富んだ地域、性からか、地域の人々は文化財に対して非常に目が肥えている」という特徴がある。京都の方々は「京都」という伝統文化に富んだ地域、性からか、地域の人々は文化財に対して非常に目が肥えている」という特徴がある。京都の方々は「京都」という伝統文化に富んだ地域、性からか、地域の人々は文化財に対して非常に目が肥えている」という特徴がある。

期間中には特別御朱印を授与
展示の仏さまに因んだ仏名を揮毫

会場では東京・九州会場で授けられ、この特別御朱印は、延暦寺と縁の深い画象北不動明王、阿弥陀如来、観世音菩薩の六種の仏名が揮毫されています。期間中は延暦寺の僧侶が直々に日付をお入れしお授けします。



特別展「最澄と天台宗のすべて」 不動明王と揮毫された御朱印 幸甚です。



国宝 七条刺納袈裟

一領 麻（繊維・平織）刺納 中国・唐時代 八世紀 滋賀・延暦寺蔵

伝教大師が入唐修学の地「仏蘭寺」にて、師である行満から相伝した天台宗六祖荊溪大師湛然の袈裟で、裏面には「荊溪和尚納」との墨書が見られる。請来目録には記されていないものの、『比叡山最澄和尚法門道具等目録』等にてこの袈裟を同定できる記述があり、伝教大師在世時から重宝とされた宝物である

重文 智証大師（円珍）坐像 良成作

一軀 大造彩色 平安時代・康治三年（一一四三） 京都・聖護院蔵



園城寺（三井寺）に伝わる智証大師の肖像「中尊大師像」の忠実な模刻像 比叡山を下りた寺門派から応仁の乱を機に聖護院へと伝わり守り継がれた